

新垣尚子(あらかき しょうこ)さんはUN職員としてどのような仕事をしているかな？

(1～11に当てはまると思う部分にマーカーしながら読もう！)

1. 勤務国と職場名
2. 国連職員になったきっかけ
3. 最初の就職先名
4. 勤務した国名(5か国)
5. 東ティモールでの任務内容
6. ルワンダでの仕事内容
7. 紛争地域で仕事をして感じたこと
8. 国連で働く魅力
9. 「国連憲章」に書かれていること
10. 国連で働くために大事なこと
11. その他、1～10以外で補足説明したいこと

①那覇市出身の新垣尚子さん(49)は、興南高校を卒業後、沖縄国際大学英文科に入学。その後、研究者を目指して立命館大学大学院に進学。大学院2年の頃に国連本部で職場体験をしたことがきっかけで、理想を高く掲げて仕事をする姿勢に魅力を感じて国連職員になりました。

②1995年、国連開発計画(UNDP)に就職。1999年、住民投票でインドネシアからの独立が決まった東ティモールで紛争が起きました。戦闘でたくさんの方が犠牲になり、家や学校や道路が破壊されました。新垣さんは、戦闘から逃げた人たちが故郷に帰れるようにしたり、国会や学校をつくる手助け、初代外務大臣に就いた人にアドバイスしたりと、紛争後の復興の仕事に取り組みました。

③ルワンダ、アフガニスタン、イエメン、シリアなどの紛争地域への人道支援に関わる仕事もしました。水や電気のない環境で生活し、いつ地雷を踏むかわからない状況の中で、戦闘で傷ついた人々の支援のため駆け回りました。ルワンダでは、犠牲になった死者の数を数える仕事をしたこともあるそうです。「目の前の状況に絶望的になることもある。でも、絶対に諦めないで復興に向けて取り組むことを大切にしてきました」

④紛争地域で仕事をして、故郷沖縄が重なりました。大学で沖縄戦を体験したお年寄りの話を聞いたり、父や祖父母の戦争体験を聞いてきた中で、目の前で起こる紛争を「人ごととしては見られない」と感じたそうです。だからこそ、過酷な現実にも直面しても諦めない強い思いを持ち続けてきました。

⑤新垣さんは国連で働く魅力を「常に理想を掲げて仕事ができること」と語ります。国連の目的などを定めた「国連憲章」には、戦争の被害から人々を救うこと、人間の尊厳を守ること、平和や安全を維持するために努力することなどが記されています。「理想と現実のギャップはありますが、実現したい理想に向かって、絶対に諦めない」と前を向きます。

⑥世界中から集まった職員と一緒に仕事をする国連。「諦めないこと」「自分を信じること」「物怖じしないこと」が大事だそうです。「何かをする時、自分には無理だと思ったら本当に無理になってしまう。自分を信じて、どんどん新しいことにチャレンジしてほしいです」とワラビー読者にメッセージを送ってくれました。

